

東大阪

ひょうたんやまいなりじんじゃ 瓢箪山稲荷神社

近鉄奈良線瓢箪山駅前を南北に横切る旧国道170号線沿い約700mは、約250の商店がならび、日本で唯一「アーケードが国道にかかる商店街」として知られており、人と自転車がぶつかるほどの賑やかさで行き交っている。

駅から、南にのびる商店街は「ジンジャモール瓢箪山」と名付けられ、瓢箪山稲荷神社は、その商店街沿いに赤い鳥居をかまえている。そこから参道にはいり境内にかけて石鳥居、石灯籠、狛犬など、ふつつう神社に見られるものを始めとして、玉垣・寄付金をきざんだ石碑に至るまでたくさんの石造遺物が存在している。

瓢箪山稲荷神社は、山畑古墳群中、最も古い6世紀初期に造られた最大の古墳、通称「瓢箪山古墳(双円墳)」の西斜面に社殿が建てられている。「ひょうたん



現在の瓢箪山稲荷



明治時代の瓢箪山稲荷全景

所在地：東大阪市瓢箪山町8-1
最寄駅：近鉄奈良線「瓢箪山駅」下車 南へ徒歩3分
TEL：072-981-2153

やま」という地名はこの古墳の形が瓢箪に似ていることからついたといわれる。

社伝によると、天正11年(1584)に豊臣秀吉が大坂城築城にあたり、異の方向のこの地に金瓢を埋め伏見桃山城から「ふくべ稲荷」を勧請したのにはじまるといわれている。稲荷神を祭神として祀り、辻に立ち、通行人の話し言葉や、方角、経験などから吉凶を判断する「辻占」の総本社としても有名。

幕末から、明治・大正にかけて参道両側に旅館・茶店がならび大いに繁盛し、大阪堂島の米相場の上り下りも、この辻占によって占われたとか。

今も、参拝後、神前でおみくじを引き、東参道口の「占場」に立つと、同神社の宮司が占う。現在、年間数百人ほどが占って貰いに来るそうである。(池淵皇代)